

平成 30 年度 シラバス

教科	家庭科	科目	家庭総合	単位数	2	学年	2 学年
学習の到達目標						使用教科書・副教材等	
人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						東京書籍「家庭総合」 家庭総合学習ノート	
評価の観点							
1. 関心・意欲・態度		2. 思考・判断・表現		3. 技能		4. 知識・理解	
家族・子ども・高齢者・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、生活していくうえでの知識・技術を習得して、生活の充実向上を図ろうとする意欲がある。		学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容を発表や課題等でまとめることができる。		自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。		人が生活していくうえで必要な基本的知識や技術を身につけ、理解している。	
評価方法							
① 定期テスト ② 課題の提出 ③ 被服実習・調理実習 ④ ホームプロジェクト ⑤ 出席状況 ※ 欠課時数が、出席すべき授業時数の <u>3分の1</u> を超えた場合、授業時数不足で単位保留となる。(授業時数不足の科目が1科目でもあれば、原級留置となる)							

学期	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	評価方法	進捗状況
1 学期	(1)	「家庭総合」を学ぶに当たって	○家庭総合で何をどのように学ぶか理解させる。		
	(1)	ホームプロジェクトの実践と学校家庭クラブ	○家庭生活や地域の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。	・夏休みのレポート提出	
	(28)	第7章 衣生活をつくる 1. 被服の役割を考える 2. 被服を入手する 3. 被服を管理する 4. 被服を作る 5. 衣生活の文化と知恵 6. これからの衣生活	○被服のさまざまな役割を整理する。 ○被服材料の特徴を理解し、組成表示・取り扱い表示・サイズ表示などの意味を知る。 ○汚れ落ちの仕組みを理解し、被服に適した洗濯や保管方法を知る。 ○平面構成と立体構成の違いを知る。 ○正しい採寸方法を知り、自分のサイズを知る。 ○被服製作の基本的事項を確認し、自分に合った被服の製作ができる。 ○南風原絨など、地域の伝統的な衣生活文化を取り上げ、伝承と創造について考えさせる。 ○生涯を通じて健康で安全な衣生活が営めるようになる。	・エプロン実習 ・観察	

学期	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	評価方法	進捗状況
2 学期	(8)	第1章 自分らしい人生をつくる 1. 生涯発達の視点 2. 青年期の課題 3. 目標を持って生きる 4. 人生をつくる 5. 家族・家庭を見つめる 6. これからの家庭生活と社会	○各ライフステージの特徴と課題を理解する。 ○生涯発達の観点から今の自分を客観的に見つめ、生活課題に対応した意思決定の大切さを理解する。 ○男女が相互に協力して家庭を築くことの重要性を理解し家庭生活の在り方について考える。 ○家族・家庭に関する基礎的な法律を知り、現在の動きを把握する。 ○家事労働・職業労働について知り、ワーク・ライフ・バランスについて考える。	・課題提出 ・観察	
	(8)	第6章 食生活をつくる 5. 調理の基礎	○食品の扱い方、調理衛生と安全について科学的な知識の習得と実践ができるようにする。 ○調理の基本的技術、調理器具の扱い、衛生面、マナーを身につけさせる。	・調理実習 (2回)	
	(8)	第3章 高齢社会を生きる 1. 高齢期を理解する 2. 高齢者の心身の特徴 3. 高齢者を支える 4. これからの高齢社会	○高齢社会の現状と課題を理解する。 ○高齢期の心身の変化や特徴と、個人差が大きいことを理解する。 ○高齢者を支援する方法を具体的に学ぶ。 ○身近な高齢者との触れ合いの機会を探す。 ○高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題を考える。	・課題提出 ・観察	
3 学期	(12)	第8章 住生活をつくる 1. 住生活について考える 2. 住生活の計画と選択 3. 住生活の文化と知恵 4. これからの住生活	○住居の機能を考える。 ○平面図の基礎知識を習得し、間取りや動線について理解する。 ○ライフステージに合った住居を考える。 ○室内外の環境に着目し、安全性・快適性等を考慮する必要性を理解する。 ○バリアフリーの考え方を理解する。 ○気候風土に応じた住居や住まい方の工夫、住様式があることを理解する。 ○住環境における地域社会とのつながりの重要性を理解し持続可能な住生活とは何か考える。	・課題提出 ・観察	
	(4)	第4章 共に生き、共に支える ・地域の防災力を高めよう	○地震や台風などの自然災害などに対する防災意識を高め、対策を講じることができる。	・実習 ・観察	

平成 30 年度 シラバス

教科	家庭科	科目	家庭総合	単位数	2	学年	3 学年
学習の到達目標						使用教科書・副教材等	
人の一生と家族・家庭、子どもや高齢者とのかかわりと福祉、消費生活、衣食住などに関する知識と技術を総合的に習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。						東京書籍「家庭総合」 家庭総合学習ノート	
評価の観点							
1. 関心・意欲・態度		2. 思考・判断・表現		3. 技能		4. 知識・理解	
家族・子ども・高齢者・消費・経済などに対して、また、それらに関連する制度や法律等に関心を持ち、生活していくうえでの知識・技術を習得して、生活の充実向上を図ろうとする意欲がある。		学習した内容を理解したうえで、自分の生活課題や社会的な課題を見つけ、解決のためにどのようなことができるのかを思考し、判断した内容を発表や課題等でまとめることができる。		自立するために必要な調理技術、縫製技術、また家族介護のための基礎的技術などを身につけることができる。		人が生活していくうえで必要な基本的知識や技術を身につけ、理解している。	

学期	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	評価方法	進捗状況
1 学期	(1)	「家庭総合」を学ぶに当たって	○家庭総合で何をどのように学ぶか理解させる。		
	(8)	第5章 経済生活を営む 1. 職業生活を設計する 2. 計画的に使う 3. 国民経済・国際経済と家庭の経済生活 4. 現代の消費社会 5. 消費者の権利と責任 6. これからの消費生活と環境	○高校卒業後について、経済的自立と職業について主体的に考える必要性を理解する。 ○生活の基盤となる家計管理の重要性を認識し、ライフステージごとのポイントを知る。 ○国際化・複雑化している経済社会と家計との関係を理解する。 ○キャッシュレス社会のメリット・デメリットを考え、契約や消費者信用、多重債務問題などを学習し、消費者として適切な判断ができるようにする。 ○消費者基本法を通して、消費者には権利と責任があることを理解する。 ○大量消費から環境負荷の少ないライフスタイルへの転換を考え、持続可能な生活ができるようにする。	・課題提出 ・観察	

学期	時数	単元・教材名	学習の目標(学習のねらい)	評価方法	進捗状況
1 学期	(8)	第4章 共に生き、共に支える 1. 私たちの生活と福祉 2. 社会保障の考え方 3. 共に生きる ・誰もが暮らしやすい社会を目指して「ユニバーサルデザイン」	○一生を通じた福祉や社会的支援の必要性を知る。 ○社会保障制度の理念と内容を理解する。 ○多様な人々のニーズ、ノーマライゼーション、ユニバーサルデザインの理念を理解している。	・課題提出 ・観察	
	(26)	第6章 食生活をつくる 1. 食生活の課題について考える 2. 食事と栄養・食品 3. 食生活の安全と衛生 4. 生涯の健康を見通した食事計画 5. 調理の基礎 6. 食生活の文化と知恵 7. これからの食生活	○家族の健康の保持促進を図るために必要な栄養、食品、調理に関する基礎的な知識と技術を習得させる。 ○豊かで充実した食生活の向上を図る能力と実践的態度を育てる。 ○生涯を通じて健康で安全な食生活を営む力を身につける。 ●調理実習(6回) 洋菓子の作り方(シフォンケーキ) 和食の作り方(親子どんぶり) 洋食の作り方(ハンバーグ) 中華料理の作り方(麻婆豆腐) 琉球料理の作り方(硬ジュース) 弁当の作り方	・調理実習 ・課題提出 ・観察	
2 学期	(17)	第2章 子どもと共に育つ 1. 命を育む 2. 子どもの育つ力を知る 3. 親として共に育つ 4. 子どもとの触れ合いから学ぶ 5. これからの保育環境	○出産前後の健康管理と子どもの発達の様子および発達段階を知る。 ○人生の初期における親・家族や周囲の人々の関わり方の大切さを理解する。 ○遊び、基本的な生活習慣の形成、食事、健康管理について知る。 ○子どもとの触れ合いを通して、愛着の形成と親としての成長を理解する。 ○子どもを取りまく社会変化の現状について理解し、考える。 ○児童福祉の理念を理解し、子育て支援の在り方について考える。	・課題提出 ・観察	
	(10)	第9章 生活を設計する 生涯を見通す	○今までの学習を踏まえ、キャリアの視点から生涯の生活設計に必要な要素をまとめる。 ○これまでの学習を踏まえて、自分の目指すライフスタイルを考え、高校卒業後の生活設計を立てる。	・課題提出 ・観察	
3 学期	(10)				

評価方法

① 定期テスト ② 課題の提出 ③ 調理実習 ④ 出席状況

※ 欠課時数が、出席すべき、授業時数の3分の1を超えたら、授業時数不足で単位保留となる。(授業時数不足の科目が1科目でもあれば、原級留置となる)